

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601993
法人名	社会福法人 三井福祉会
事業所名	グループホームあいの里 (ユニット名 虹の街 )
所在地	福岡県久留米市山川安居野3丁目3-18
自己評価作成日	平成25年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成25年6月6日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあいの里は筑後川の流域に位置し、のどかな田園風景の中にあります。春は菜の花の黄色から大根の花の白への移り変わりを見事に見せてくれる堤防を望み、ゆったりと穏やかに生活して頂ける様に支援しています。「地域との交流を大切にしながら家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活が送れるよう、スタッフも共に寄り添うようなケアを目指します」と理念をかかげ取り組んでいます。ご利用者にゆったりとした日々の中で、安全に楽しく暮らして頂ける様に、ご利用者の意向や思いをくみ取り支援しています。外出行事を多く取り入れたり、夏祭りや文化祭を併設デイサービスと合同で開催して他の方との交流を行っています。夏祭りや文化祭は、地域の方やご家族にもたくさん参加して頂いています。また、日々の生活の中ではご利用者の笑顔と笑い声があふれている明るい事業所です。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所開設時に管理者は職員とともに独自の理念をつくり、研修や会議で理念の意義を学び、共有を図れるように理念を事業所の見やすい所に掲示し、実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一斉清掃にご利用者と参加したり、散歩しているときに挨拶をしたり、声をかけていただいたりしている。また、併設のデイサービスと合同で夏祭り・文化祭を行い、地域の方に参加していただいている。避難訓練にも参加いただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所や職員の状況や力に応じて、地域に貢献することがないか、地域の民生委員さんに声かけを行っている。また、地域の中学生の職業体験を受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてサービスの実践やご利用者の状況等の報告・話し合いを行い、そこでの意見を職員で話し合い・共有しサービスの向上に繋げている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会に参加していただくとともに、解らない事があるときには積極的に問い合わせサービスにつなげている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を積極的に行い、なぜ身体拘束がいけないのか基本的なことから学び正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会を行ったり、会議等で話し合う機会を持ち未然に防ぐようにしている。また、見過ごされることがないようにアンケートを行い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度についての研修等に参加し学ぶ機会を持ち、その必要性があるときには個々に対応し支援しようとしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約や改定を行う際には、不安に思われることや疑問に思われるようなことは個々に十分に説明を行い理解・納得していただけるようしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族・ご利用者に参加いただき、意見や要望を言える機会を設けている。また、「ご意見箱」を設置し意見が出しやすいようにしている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや毎月行っている会議の中で意見や提案を出し合い、反映させている。また、法人全体の会議において職員より出された意見や提案を報告し反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、年1～2回職員の個別面接を行い、希望や目標等やりがいを持って働けているかを聞き、アドバイスや上司へ報告等を行い環境・条件の整備に努めている。また、委員会を立ち上げ、活動を通して各自が向上心を持って働けるようにしている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集・採用に関しては法人にて行っている。職員についてはその能力や希望が活かせるよう生き生きと勤務出来るように配慮している		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部講師による研修を法人全体で行い、職員全員が参加し、人権教育・啓発活動に取り組み日々のケアの中でご利用者のプライバシーを守り、人権を尊重するように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を紹介し、希望のある研修には進んで参加できるように支援している。また、職員一人一人にあった研修への参加の機会を作り、働きながら学ぶ事を進めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市グループホーム部会に加入し、交流会や研修会に参加し、他の事業所の取組等を参考にしたり意見交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に、必ずご本人と面談を行い、困っている事、不安なこと、要望等を伺い安心してサービスを受けられるように努めている。また、入所初期の段階でも同様に不安なことなどが解消できるように声掛け等を行っている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みの段階からご家族が困っていること、不安に思われていることを聞き、サービス導入前にも面談を行い要望等に耳を傾け関係づくりに努めている。また、入所初期の段階では面会時等にお聞きし関係づくりを深めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にご本人とご家族の意向から、今何を必要とされているかを見極め、状況においては、他のサービス等を紹介したりと、ご利用者が最善のサービスを選択できるように支援している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の暮らしを一緒に過ごす者としてご本人の今まで大事にされてきたことを共有し、出来られることを支援しながらより良い関係を築いていくように努めている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族と情報交換を行い、2ヶ月に1度「状況報告書」を送付し、また必要時には電話連絡・報告を行いご本人の状況をご家族と共有する事によって、ご家族と一緒にご本人を支えていけるより良い関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が今まで大切にされてきた馴染みの人や場所等を日頃の会話や資料で把握し接する機会を設けたり、地域の行事に参加を行っている		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人一人の性格を十分に把握する事によりご利用者同士が仲良く関わり合え、トラブルや孤立されないように配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所されたときは入院先へお見舞いに出掛けたり、ご家族から近況をお聞きして今までの関係性を大事し、相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や言葉に耳を傾け一人一人の思いや意向の把握に努めている。意思表示の困難な方にはご家族や関係者からの情報を得るとともに、表情やしぐさから思いをくみ取り意向の把握に努めている		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、これまで関わってきた事業所等から情報を得て生活歴等を知り、把握をしてサービスに活かせるように支援している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状況や状態について申し送りや記録等を通して職員間で情報を共有し、現状把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く暮らせるように意向や要望を、ご本人・ご家族よりお聞きし、関係者と共に課題とサービスについて話し合ったことを介護計画に取り入れ、現状に即したプラン作りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表や日誌・ケース記録等に気づきや工夫を個別記録し、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに繋げている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズに合わせ、職員と共に話し合い既存のサービスに捉われない、多面的な支援を心掛けている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の神社へ参拝に出掛けたり、近くの祭りや図書館、公園等に出掛けたり、文化祭へ出展用の作品作りを楽しみながら暮らせるように支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望される納得のいくかかりつけ医との関係を大切に、また事業所として関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、バイタルチェック(血圧・体温測定)を行ない、異常が見られる時には看護師に報告を行っている。また、日常の関わりの中で状態の変化などの情報は随時看護師に報告し、必要時にはかかりつけ医に相談し指示を仰ぐなどの支援を行っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院へお見舞いに行き、ご本人・ご家族に安心して治療して頂く様に直接お話ししたり、病院関係者と情報交換を行ったり、必要時には担当医に相談し、ご家族と共に今後の生活に向けての話し合いを行い早期退院が出来るように支援している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所が出来ることを十分説明し、ご本人・ご家族の意向を踏まえながら、かかりつけ医・ご家族と話し合い、重度化した場合や終末期に対応できるように、かかりつけ医の往診や訪問看護との連携を整えたりしながら、支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救急救命士より救命講習を受け救命救急法を学んだり、マニュアルや事例を通して勉強会を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、夜間想定・昼間想定 of 避難訓練を行っている。また、消防署からの立ち合いの元、訓練を行い、指導を仰いでいる。避難訓練には近所の方にも参加をお願いして、協力体制を築いている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し、人生の先輩であるという意識を持って、言葉かけや対応を行う様に心掛けている		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎月、常会を開き意見や希望をお聞きしたり、毎日の生活の中で希望や意見が言えるような雰囲気づくりに努めている。また、日頃の会話の中にも意見や希望が出ていないか耳を傾けている。表現が難しい方などには選択方法でお聞きし自己決定できるように工夫している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れ、決まりごとにとらわれず必要に応じて日程を変更したり一人ひとりのペースを大切に希望に沿った支援をしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人にその日の服装を選んだり、外出する時や行事を行うときなどにはお化粧をしていただいている。また、入浴後には化粧水等をつけたり髪をといたりと身だしなみが出来るように支援している。毎月、ヘアーステーションの訪問を受け希望者には利用していただいている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房で食事は作っているが、ご利用者のご家族から頂いたり、畑で採れた野菜等をご利用者とともに調理をしたりしている。ご利用者の好みや食べたいものを伝え、メニューに反映していただいている。調理したもののつぎ分けや食器洗い等を一緒に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分の摂取量を把握し、不足しているような時はご本人の好まれるものや摂取しやすいものを提供している。また、ご利用者の状態に応じて食事形態を変更して提供している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者の能力や口腔状態に応じたケアを行っている。また、義歯を使用されている方には義歯洗浄剤を使用して洗浄を行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り込んだ食事の提供や、牛乳やヨーグルトを定期的に提供している。また、体操や散歩・室内での歩行運動等を行い個々に応じた予防に取り組んでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、夕食前と夕食後に入浴を行っているが、ご本人の希望時間がある場合は個々に合わせて支援を行っている。また、季節に応じて菖蒲湯やミカン湯を楽しんでいただいている		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や雑音にも配慮し一人ひとりがゆっくりと休んでいただけるように支援している。また、夜間不眠の方には日中の活動を支援したり、寝る前に入浴していただき安眠していただけるように支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の管理は看護師が行っているが、一人ひとりが飲んで内服薬を把握し、副作用や飲み合わせに気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした(家事、作品作り等)楽しみ事や気晴らしの支援を行っている。また、毎日の生活の中で行うレクリエーションは、ご利用者のなじみの歌や大きな声(発声)を出していただき気分転換等をしていただけるように支援している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の体調や希望に合わせ、散歩や買い物などの希望に沿って戸外へ出かけられるように支援に努めている。また、季節に応じて様々なお花の見物に出かけたり、ご家族の支援を得ながら温泉などに出かけている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で現金の管理が難し方は、事業所金庫に保管し職員が管理を行っているが、買い物にご利用者と出かけるときには、ご本人に支払いをしていただくように努めている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所にて自由に電話していただくことが出来る。また、ご自分で行うことが難しい方は、希望があるときは職員が支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々をリビングや洗面台に飾っている。また、掲示物にも季節の物を掲げている。日差しが強くなりすぎているときにはカーテンや障子で調整したり、緑のカーテンを育て心地よく過ごしていただけるように心がけている		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者同士でソファに座り雑談されたりテレビを見られたりしている。また、ベランダやサンルームにテーブルと椅子を置き思い思いに過ごしていただけるように工夫している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し馴染みのある家具等を持参していただいたり、思い出の写真を居室に飾ったり、ご本人の好まれるような掲示物を飾って、居心地良く過ごせるように工夫している		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は玄関の段差以外はバリアフリーとなっており、安全に暮らせるようにしている。また、ご自分の居室やトイレ等がわかりやすいように居室の名前を大きく掲示しており、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している		